

令和3年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会第1回第二分科会
開催日時	令和3年7月8日(木) 午後3時から5時まで
開催場所	高砂地区センター2階会議室
出席者	【委員8人】 小松原会長、折登委員、河村委員、鈴木委員、谷本委員、町田委員、水寄委員、村上委員 【区側7人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員3人) 商工振興課(商工振興課長、工業振興係長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認等を行った)

2 事務事業の概要説明、ヒアリング(葛飾ブランド創出支援事業)

(商工振興課より「葛飾ブランド創出支援事業」の概要について説明をした後、質疑応答、議論)

A 委員 : 「葛飾町工場物語集」の漫画は毎年違う人が描いているのか。

商工振興課 : 毎年公募しているが、大体同じ人が手を挙げて描いている。去年は新しい人も応募してきて、選ばれ描いてもらった。

B 委員 : 葛飾ブランドに認定している企業がどのくらいあるのか。

商工振興課 : 約90社である。3年ごとに再認定をしており、廃業した会社や製品をもう作っていないような会社などは認定を取り下げている。

B 委員 : 対象企業の数は葛飾区にどのくらいあるのか。

商工振興課 : 2016年時点で、葛飾区には2,131工場ある。

B 委員 : 区内にある工場の数に対して、認定企業がなぜこれほど少ないのか。

商工振興課 : 葛飾ブランドとして全ての物を認定しているわけではなく、ここでしか作れないような物を審査して、認定している。

B 委員 : 葛飾区の工場全体の約5%の企業のために、この事業を実施する必要があるのか。

商工振興課：できるだけコストをかけないで、区内産業をPRしていくという考えで、事業を実施している。

C 委員：区内の工場全てに毎年声をかけているのか。立候補はあるのか。

商工振興課：広報や、区ホームページで周知している。委託事業者からも企業に周知している。立候補に関しては、自薦、他薦両方ある。

C 委員：情報を拾いにいかない企業は、葛飾ブランドについて知らないということか。

商工振興課：知っている企業もちろんあるが、知らない企業もある。

C 委員：どれくらいの企業が葛飾ブランドを認知しているか、データはないのか。

商工振興課：そこまでは把握していない。

D 委員：活動指標の「展示会出展数」は何を示しているのか。展示会の数か。

商工振興課：そのとおりである。

D 委員：「独自展示会は」何を示しているのか。

商工振興課：葛飾ブランドに認定している企業のみを集めて、区がKITTE丸の中で、独自で開催している展示会である。

D 委員：コスト内訳の「認定企業見本市出展経費助成」とは何か。

商工振興課：葛飾ブランドに認定された企業が、イベントに出展する際に経費がかかるので、1回につき50万円まで補助金を出している。葛飾ブランドに認定していない企業には、別の事業で、30万円まで助成金を出している。

A 委員：葛飾ブランドに認定された企業は補助金を二重にもらえるのか。

商工振興課：どちらかである。助成は年間1回ではなく、1企業につき1回までである。

D 委員：令和元年度の「認定企業見本市出展経費助成」の133万6千円のコストは、葛飾ブランドとして認定した企業がイベントに出展した際の補助金という考えで良いか。

商工振興課：そのとおりである。

B 委員：何年か前の行政評価委員会で廃止した事業が、事業名を変えてやっているのではないか。

商工振興課：事業名を変えて実施しているわけではない。平成19年度から継続して実施している事業である。

小松原会長：今回評価する事業は平成27年度に葛飾区行政評価委員会で廃止の答申をした事業とは別の事業であるが、類似した事業が多くある。

例えばこの事業で50万円の補助金をうけて、翌年、見本市の出展事業として30万円の補助金をうけることは問題ない。棲み分けが必要なのではないかというのが、皆さんの意見だと思う。認定製品ごとに補助金がもらえるのか。一つの企業で認定製品が二つあれば、50万円の補助金が2回もらえるということか。

商工振興課：そのとおりである。

E 委員：「新規認定件数」が3件とあるが、応募件数はどのくらいあるのか。

商工振興課：具体的な応募件数は公表していないが、3件以上の応募があった。

E 委員：認定件数の割合も公表していないのか。

商工振興課：認定していない企業もあるので、公表できないが、応募数は一桁である。

小松原会長：令和2年度委託料の551万6千円の金額の内訳を教えてください。

商工振興課：業務委託費が約350万円、設営委託費が約160万円、マンガ原稿制作委託費が約30万円である。その他にパネルの制作費が約10万円弱である。

小松原会長：委託先は公募で決まるのか。

商工振興課：そのとおりである。それぞれ別の会社と契約している。

A 委員：成果指標として「認定製品・技術数」を設定しているが、この事業が効果あったと言えるのは、認定をされたら売上が上がったことだと思う。

認定をされたら売上が上がったなどのデータはあるか。データがないと事業自体に効果があったかどうかわからない。

商工振興課：具体的な数字はないが、例えばテレビなどのマスコミ関係の取材を受けたり、展示会で交換した名刺の数をアンケートで取ったりしている。葛飾ブランドに認定したことで、売上が上がったかを数字で把握することは難しい。

C 委員：葛飾ブランドの認知度は毎年上がっているのか。認定企業にどういったメリットがあったのか。今の資料からでは見えてこない。アンケート結果などがないと、議論できない。

F 委員：「葛飾町工場物語集」を1回につき約8,000部作成しているとのことだが、配布先を教えてください。小学校にも配布しているのか。

商工振興課：小学校、中学校、高校には配布している。他には図書館、地区センターや、区役所内の区政情報コーナーなどに配布している。他には認定企業に配布し、認定企業がPRのため配布している。

F 委員：「葛飾町工場物語集」は毎年90万円程度で8,000部も作成できるの

か。

商工振興課：印刷費が 90 万円程度で、他にも原稿料などが費用としてかかる。

小松原会長：先ほど議論になったアンケートはとっているのか。

商工振興課：葛飾ブランドとしてではなく、国際フォーラムで開催している見本市などで、名刺交換の数や売上数などはアンケートとして取っているが、それぞれの企業の売上数が記載してあるので、提供することは難しい。

小松原会長：「認定製品・技術数」では成果の把握ができない。この事業を実施することで、企業の利益がどれだけ上がったかなどが把握できる成果指標を設定する必要があるのではないかと。次回、成果を把握できる指標があれば、示してほしい。3年ごとに認定企業の見直しをしているならば、売上がどれだけ上がったかなどの聞き取り調査をするべきではないかというのが皆さんの意見だと思う。

商工振興課：確かに今まではやっていなかったが、今年度からは全ての再認定企業を回って聞き取り調査を実施している。

B 委員：名刺交換をしたからといって、実績があがったか分からない。

商工振興課：企業に聞いたところ、見本市に出たからと言って、売上が上がったかどうか分からない。いきなり商談するのは稀で、まずは展示会で名刺交換をして、企業からアプローチすることがほとんどだ。

小松原会長：販路の拡大を事業の目的としているならば、それを把握できる成果指標を設定する必要があるのではないかと。把握できないならば、事業の目的を変えないといけないのでは。

G 委員：企業を支援することは良いと思うが、お金の使い方は考えたほうが良い。

D 委員：「葛飾町工場物語集」の漫画は支援事業として有効だったか。

商工振興課：有効と考えている。漫画の部分だけ読む人もいると聞いている。

D 委員：通常のPR紙よりも、漫画の方が読みやすいなどの意見があれば支援すべきだと思うが、客観的な評価はしていないのか。

商工振興課：認定企業からは、好意的な意見を聞いている。

G 委員：子どもたちに葛飾ブランドは認知されていない。小学生が読んで面白い内容だと思う。PRするならば、毎年小学生に配布した方がよい。

B 委員：これは小学生向けなのか。子どもには難しい内容ではないか。

商工振興課：大人向けである。企業の営業ツールの一つとして、漫画だとインパクトが強いと聞いている。今はkindle版を作成して、無料で読めるようにしている。企業によっては、自分の会社が掲載してあ

る部分だけ欲しいという要望もある。そういった場合は、その部分だけデータを提供し、自社のパンフレットの一部に掲載している会社もある。

小松原会長 : 著作権は問題ないのか。

商工振興課 : 著作権は区なので、問題ない。

D 委員 : 漫画はとても良いと思うが、企業の意見がどうだったかなどの客観的なデータがないと、評価できない。

A 委員 : 漫画を読んでとても面白いと感じた。お土産に良いと感じる製品もあったが、どこで買えるのか分からないので販売情報を掲載してもいいのではないか。

小松原会長 : 区としては葛飾ブランドの認定数を増やすことを目的としているのか。それとも希少だということで、認定数は増やさない方針なのか。

商工振興課 : 何でも認定するという訳ではないため、認定数は少なくなる方向で考えている。

小松原会長 : 認定数は増えていかないという考えでよいか。

商工振興課 : 毎年5件程度の認定を考えている。

小松原会長 : 認定数が少ないとブランド名の認知度があがらないのでは。事業の目的が分からない。

G 委員 : 葛飾ブランドへの申込手順が面倒なのではないかと感じる。

B 委員 : 審査は誰がしているのか。

商工振興課 : 商工会議所の役員や、学識経験者、区の職員も審査している。

3 その他

現場視察 ((有) 精工パッキング)

4 閉会